

えほんのおへや通信



2014年1月1日(水)発行 サンガこども園

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。お正月の過ごし方は時代とともに変わってきましたが、気持ちは変わりません。今年はどうなるでしょう。

サンガこども園で定期購読しています福音館書店の月刊幼児絵本「こどものとも」1月号の紹介。

こどものとも 0.1.2

10ヶ月～2歳向き

「ピリンポリン」

西巻かな作

ちょっと不思議なかたちが、おすましたような雰囲気できれいに並んでいます。ページをめくると次の場面で、自由に動いたり、崩れたり、様々に変化します。



こどものとも 少年版

2～4歳向き

「プーコン」

井上洋介 絵と文

うさぎのお店で帽子、くまのお店で靴、もぐらのお店で手袋、うしのお店で角笛を買ったぼく。みんな「すてきね」ってほめてくれた。ぼくが角笛を「プー」と吹くと、きつねの子が「コーン」となった。



こどものとも 年中向き

4～5歳向き

「ふじさん おはよう」

福知伸夫作

冬がよく晴れた朝、遠くに山の姿がくっきり見えると、思わず声をかけたくくなります。中でも富士山、見る場所や時間によって様々な顔を見せてくれます。



こどものとも

5～6歳向き

「カタッポ」

大原悦子文 / 山村浩二絵

カタッポとは、片方だけ落とされた手袋のこと。持ち主を探すため、カタッポたちは人知れず、駅の落とし物箱を抜け出しました。彼らをどんな運命が待っているのでしょうか？



ちいさなかがくのとも

3～4～5歳向き

「ひつじさん あそんでよ」

池谷陽子作

おとうさんといっしょに、ひつじ牧場にきました。目の前には、ひつじがいっぱい！ あのモコモコの毛にさわりたいな。ねえ、ひつじさん、あそぼうよ。



他にこんな絵本も購入しました。

「だれもしらないヒーロー」

きむら ゆういち【作】・あべ 弘士【絵】

3歳から



講談社

あらしのよりに出会って、友達になったオオカミのガブとヤギのメイ。でも、そのことは、おたがいの仲間にはひみつ。敵と味方が仲良くするなんてとんでもないと、みんなから責められるにきまっているからです。

今日も、メイはガブに会いに出かけたが、なぜかヤギの仲間たちがゾロゾロとついてきてしまった。これじゃ、ガブに会うことができません……。

そんな中、子ヤギのミイが川の中で立ち往生してしまった。目の色を変えて、ミイのところに向かうガブ。ミイを狙って、イヌワシが近づいてきていたのだ。イヌワシに狙われているミイのところ、オオカミまでやってきた。ミイはもうどちらかに食われてしまう……。

※年齢は目安です。

【雑感】

大人は言葉からイメージすることを容易にできますが、幼児はまだまだイメージする経験が浅いので、絵本などのすぐれた絵を頼りにイメージします。絵本の絵はイメージを固定化するので良くないと言う方が時々ありますが、そんなことはありません。美しい絵、楽しい絵はそれ自体、すぐれた美術作品です。大人も子どもも楽しめるものです。

